

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【下落合小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 国語「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低い。</p> <p><指導上の課題> 従来の「教師主導」、「教え込み」型の授業から「児童が学びを獲得する授業」へと、必要に応じて授業の形態を柔軟に変えられるようにする。</p>	<p>⇒</p> <p>主体的に取り組み、自ら獲得した力としての知識・技能を高める授業を展開する。自分の考えを整理・表現するための思考ツール等を積極的に活用し、情報を整理したり、関連付けられたりできるようにする。【通年・1単元1回以上】 様々な体験活動を通して、リアルな体験から知識・技能を身に付けられるよう工夫する。【通年・1単元1回以上】</p>
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 「物語を読んで心に残ったところとその理由をまとめて書く」問題で無回答が目立った。</p> <p><指導上の課題> 個に応じた指導を充実させていく必要がある。児童主体の学習活動の機会が十分に確保できていない。</p>	<p>⇒</p> <p>ICTの活用や「じ・しゃ・く」を意識した授業展開を、発達段階に応じながら推進し、表現力(特にアウトプット)を育てる。【通年・1単元1回以上】 各教科において探究的な学びを設定したり、総合的な学習の時間を充実させたりするなど、児童が主体的に取り組む活動を充実させる。【通年・1単元1回以上】</p>

全国学力・学習状況調査
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語においては、「言葉の特徴や使い方」や「わが国の言語文化」について国・県の平均を上回ったものの、「情報の扱い方」については、県の平均を下回った。情報と情報の関係づけの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解して使うことに課題がみられる。算数においては、国・県の平均を大幅に上回った。9割以上の正答率も多く、学習内容の定着がみられる。理科についても、国・県の平均正答率を大幅に上回った。ただ「身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあること」の知識については、国や県の正答率が極端に低かったが、本校も同様に定着が不十分であることが分かった。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語においては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」いずれの内容も国・県の平均正答率を上回り、大幅に上回った問題もあった。算数においても国・県の平均を上回っている。ただ「分数の加法」については、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がみられた。理科についても国・県の平均を上回り、既習内容の定着が見られる一方で、「レタスの種子の発芽の条件」については、平均正答率が低かった。国・県においても3割程度の正答率であったが、差異点や共通点をもとに、新たな問題を見出し、表現することができるかどうかについては課題がみられた。</p>	

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能		
思考・判断・表現		

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	<p>校内研修において、「主体的な学び」につながるような授業を研究している。少人数のグループを編成し、自主的に授業を公開したり、指導について協議したりしてきた。今後も「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」をテーマに、児童が自ら学びを獲得する授業をさらに研究していくとともに、「情報の扱い方」(情報と情報の関係づけの仕方)についても系統立てて指導できるように、共通理解を図っていく。また、体験活動やゲストティーチャーを招いての授業等を通して、知識・技能を身に付けられるようにする。</p>	変更なし
思考・判断・表現	B	<p>1学期に行われた指導訪問においては、ICTの活用や「じ・しゃ・く」を意識した授業を展開することができた。普段の授業においても、各単元で1回以上はそのような授業を展開していく。調査で課題がみられた「記述による表現」については、各教科における学びを生活と結び付けて表現する活動を取り入れるなど工夫しながら、改善を図っていく。</p>	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)